

スマイル タウン

2018
4月
号

第292号

ひの社会教育センターは、市民のみなさんの“やりたい”を実現し、「豊かな暮らし」を応援する施設として、1969年に日野市と財社会教育協会が協定書に基づいて設置しました。今月もセンターで生まれるたくさんの学びの様子をお届けします。

ひの社会教育センターの活動の原点

「ひとづくり」 ・まちづくり

春は発表会の季節です。

どの教室の先生も、「発表会があると、みなさん急に上達しますよ。」と話されます。たしかに、自分の楽しみで始めたことを人前で披露すると決まれば、いつも以上に練習に気合いが入ります。お互いを励まし合える仲間の存在のありがたさに気付き、教室全体の雰囲気グンと良くなるのもこの時期です。しかし、中には、「自分は日常生活の中で楽しむためだけに学びに来ているので、人に見せたり、おとなになってまで緊張することは望んでいない」という方もいます。

おとなの発表会は、新しい自分に出会うための扉のような気がします。その扉を開けるタイミングは人それぞれです。不安な気持ちをもちながらも、仲間と一緒に勢いで開けて楽しめる人もいます。時間をかけて経験を積み、自分なりの納得ができてから開ける人もいます。

ひの社会教育センターの発表会は、決して強制ではありません。でも、自分のタイミングが来たと感じた時は、いつでもお知らせください。一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、そっと扉をひらくお手伝いをしたいと思っています。

そしてこの春も、それぞれのタイミングで晴れ舞台に立つ決心をしたみなさんがいます。新しい自分に出会う喜びを知った輝く姿を、ぜひ見に来てください。見ている私たちにも、新たなチャレンジに立ち向かう勇気のかけらを与えてくれるはずです。(担当・山本)



おとなの発表会

発表会スケジュール

- ◆ドラム発表会 3/25(日) 会場：Tree HALL
- ◆シャンソン 4/7(土) 会場：七生公会堂
- ◆ヴァイオリン 4/22(日) 会場：くにたち市民芸術小ホール

※詳細はお問い合わせください。

職員リレーコラム

佐藤 文代 (勤続35年)

体育大学を卒業して、一度は他所に勤めていましたが、ダンス講師を探しているというセンターへ、大学の恩師からの「行きなさい！」の一声でやってきて35年間、まさか定年まで続けられるとは思っていませんでした。幼児体育クラスから始まり、小学生、成人、高齢者いきいき健康体操、プール管理、水泳教室など、仕事を通して、たくさんのお出会いとたくさん学びがありました。

その中でも、自分の家族より長い時間を共にしたのではと思う、職場の仲間との出会いは、これからの人生において大切な宝です。丈夫だけがとりえて、ダンスも続けたらという私が、働いてくることが出来たのは、ともに働く仲間たちの並々ならぬ、お力添えがあればこそです。あらためて感謝申し上げます。

相手の目線に立つこと、生徒ができるようにならないのは指導している側の責任です」と言い切る川口先生(現・一橋大学名誉教授)と、「ドル平泳法」との出会いは、教育の原点を教えてくださいました。程久保地域で始まった委託事業元気高齢者等交流事業地域リビング ゆざわ・ここからネット」では、地域に根差すということはどういふことなのかをテーマに、現在も進行中です。

一緒に学びあうこと、学び続けることができるのは、平和でなければ続かない。こうしなげない日々が、とても貴重に思えるようになりまし。皆さんからいただいた贈り物を大切に、これからの時間が楽しみです。

「お世話になりました。」
来月は左・島崎のコラムです

最後になりましたが、皆様のご健康と、ひの社会教育センターのさらなる発展を応援しています。



高齢者事業の一コマ
いつもパワフルです！

センターの職員ってどんな人？
リレーコラムで自己紹介します。
今月は、3月で定年退職を迎える佐藤です。

新館タイムズ

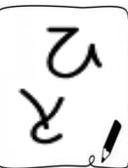
新館建設の「いま」をお届け



起工式（地鎮祭）
 社会教育協会、日野市、日野市市議会、施工主高田組、利用者、市民で無事竣工まで安全成就を願う起工式が行われました！

起工式が行われ、今年暮れの竣工を目指し工事がスタートしました。2月28日は今年の寒さと打って変わり、暖かい春の日差しにあふれた日になりました。

安全第一で、滞りのない工事が行われますよう、若宮神社井上宮司様の祝詞を頂き、本財団理事長、



ホームページ（HP）作成・更新は、地元のエンジニア・藤本さんをお願いしています。今回は藤本さんの紹介と、「HP管理者」から見えるセンターについて教えていただきました。



ひの社会教育センター Q

藤本涼子さん（ホームページ管理者）
 きっかけは、仕事で営業したというよりも、趣味からつながったご縁でした。自宅で一人の自営業なので、ほぼ毎日の日野市で暮らして仕事して...という日々の中で気づいたのが「子どもがいないと地域との繋がりはまったく持てない」ということでした。どれだけ便利な街に暮らしていても、コミュニティを知らない、「そこに根を張る」ことはできないんですね。いつでもどこでも世界と繋がれるインターネットの概念とは相反するようですが、人の暮らしや人生には土壌が必要で、そこに根を張る感覚というのは、思考や行動にとっても影響を与えます。

私が地域のコミュニティや施設の存在を知ることができたのは、センターの事業を通してでした。実はこのことが、私にとって仕事柄必要な様々なアイデアを生みだしてくれてもいます。また、とにかくその事業の幅広さに驚愕しています。「福祉」とは違う、どの世代に対しても積極的に学んだり、関わるという、まさに「生きる・活かす」経験や知恵を循環させる、地域社会において重要な場所であると感じていきます。身体で言えば「肝臓」でしょうか（笑）。
 地域が健康でいるために不可欠な場所であることを実感しています。
 （インタビュー掲載）

みてね!!



大坪日野市長をはじめ、市教育長、企画部長、市議会を代表して西野議長、窪田副議長、運営委員でもあります。池田、大高両市議、協会理事や評議員のみなさん、利用団体の粕谷様、山口様など多くの皆さんにご列席を頂き、職員も含め総勢30名を超える中で起工式を行う事ができました。
 竣工は12月、新館での運営開始は来春の4月を予定しております。工事の進捗等、ニュースにてお知らせいたしますが、お時間があれば是非、時々様子をご覧いただければと思います。移転寄付についても新しいパンフレットをつくり、未長く続けてまいります。是非ご協力お願い致します。
 （館長・島崎）



「地域のみなさんのついで場所」

2月3日（土）に「まめまきのついで」を実施しました。地域の幼児親子が集まり、みんなで節分を楽しみイベントです。土曜日だったため、小学生の参加もあり、例年よりもにぎやかな雰囲気でした。

前半は鬼のお面を作ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりと、楽しい雰囲気です。後半になり、いよいよ豆まきのスタートです。鬼のパネルに向かって「おには外！」最初は戸惑いながらだった子ども、徐々におもいきり投げられるようになりました。すると、急に太鼓の音とともに大きな鬼たちが登場...。実は大学生ボランティアや職員が、この日のために準備していたのです。幼児さんは大泣きでしたが、お父さんお母さんは大喜びでした。

これから、地域の皆さんと季節の行事を楽しむ機会を大切にしていききたいと思えます。



*みなみだいら児童館 ぷらねっとが、委託を受け、地域に根ざして11年。



賛助会へのご協力 ありがとうございます

- ★年会費（順不同・敬称略 2/1～2/28）
- ①個人会員 1口 1,000円
池上洋通 10口
- ②団体会員 1口 5,000円
モッキングバード 1口
- ③特別賛助会員 1口 30,000円

※日野社会教育センターへの支援と事業の普及、開かれた運営と経営の安定をはかるため皆様のご加入をお願いします。

新館建設寄付者ご芳名 2/1～2/28 ご寄付いただいた方

※都合によりお載せしていない方もおられます。
 多摩平卓球サークル 藤山七重 渥美博・靖子
 小林照明 (順不同・敬称略)

現在の募金総額 2/28 現在 321名+募金箱

¥20,093,221,-



おかげさまで 2,000万円!!

スマイルタウン発行：（公財）社会教育協会日野社会教育センター
 発行責任者：館長 島崎 成利 〒191-0062 東京都日野市多摩平 4-3
 電話 042-582-3136 FAX 042-581-0647
<http://www.hino-shakyo.com> E-mail: info@hino-shakyo.com